

■E-6スタジオ内測定結果

臭気測定場所	シルフィード2 1台 運転前測定 H29.12.1 9:40		シルフィード2 1台 運転1時間後測定 H29.12.1 10:40 (High運転)		シルフィード2 1台 運転約40日後 H30.11.1 10:00 (Low運転)		シルフィード2 1台 運転停止1時間後 H30.1.11 11:00頃	
	POLFA値	イオン数	POLFA値	イオン数	POLFA値	イオン数	POLFA値	イオン数
1F 玄関前	218	—	218	—	196	—	195	—
①	250	150	241	1,900	207	2,300	246	120
②	254	160	236	9,600	206	10,200	245	170
③	250	140	241	20,000	202	21,500	246	180
④	253	160	237	9,000	206	9,500	248	130
⑤	250	190	239	8,200	208	11,100	246	130
①②③④⑤平均値	251	160	239	9,740	206	10,920	246	146
臭気対策の必要性	臭気対策検討要		臭気対策不要		臭気対策不要		臭気対策検討要	
臭気判定士による 臭質判定	こもっている臭気 息苦しいレベル		コーヒー臭 少し爽やかさを 感じるレベル		臭気を感じない 爽やかさを 感じるレベル		わずか1時間で 臭気を感じ 息苦しさを 感じるレベル	
客先（女性）の評価	不快感を催す 臭気レベルで 重苦しさを 感じていた		はっきりと 環境が良くなって きたのが判る		すごく爽やかで 森の雰囲気の中 に いる様な気分		また以前の 臭気を感じ出した	

■参考

においセンサーPOLFA 値（PF 値）と人間の嗅覚の相関関係（カルモア独自基準）

空間中臭気のPF値と実用的な意味（目安）

※悪臭防止法において規制値の元となる強度

PF値	実用的な意味	臭気対策の 要否
150～200	無臭	不要
200～240	何のにおいかわからないがやっと 感知できるにおい	不要
240～270	何のにおいかわかる 弱いにおい	検討要
270～300	ひとによっては苦情が 出始める可能性があるにおい	必要
300～330	楽に感知できるにおい臭気	必要
330～360	苦情対策が必要になるにおい	必要
360～450	強いにおい強烈なにおい	必要
450以上	強烈なにおい	必要

種々の環境に於ける酸素クラスターイオンの
陽性及び陰性小サイズイオン平均濃度

場所	陽性 小サイズイオン	陰性 小サイズイオン
郊外	1,200	1,000
小都市	800	700
大都市	500	300
個人住宅 (郊外)	1,000	800
空調完備 事務所(郊外)	100	100
空調完備 事務所(大都市)	150	50

※イオン数：

酸素クラスターイオン(ヶ/cm³)を表す数字で、数が200以上だと非常に脱臭性能がUPする。

酸素クラスターイオン数が1000以上になると、森又は滝の雰囲気になるとよく言われている。